

3年間の成果を発表！ プログラミング教育でさまざまな力を身に付けました



公開授業の前に、星野尚氏（那須町プログラミング教育推進スーパーバイザー）は「プログラミングは創造ツールであり、表現手段。子どもたちが考えている思考を見える化したものであるということ」を念頭において、その動きをどのように考えたかを子どもたちに聞いてみてください」と参加者に、授業参観のポイントを話しました。

町では、平成29年度から田代友愛小学校を実証拠点校に、プログラミング教育本格導入に向けた、授業づくりや指導法の研究や教育課程の開発を進めてきました。

3年間の実証研究の成果と今後の課題を明らかにし、また、広くプログラミング教育に関心をもってもらうため、1月16日、「プログラミング教育実証研究公開発表」として、文化センターで公開授業とポスター発表を行いました。町議会議員、教育委員、小中学校の教員ほか、町内外の教育関係者約110人が出席し、プログラミング教育がどのように授業に取り入れられているかを参観しました。

○公開授業 1年生 国語

「すぎなものクイズをしよう」



児童がプログラミングした教材で交流した友だちの人数をカウントして、たくさんコミュニケーションしました

▼授業のねらい クイズを出し合い、質問や応答、説明の仕方などを考え、相手の話を聞く力、答えを想像する力、自分の考えを話す力など、コミュニケーションスキルを磨きます。



○公開授業 4年生 国語

「ことわざブックを作ろう」

ことわざについて知り、その意味や使い方を調べ、文章をアニメーションで表現しました。

「ある人物になったつもりで」

自分が絵本の中の人物やペットなどになったことを想像し、その立場から物語を表現しました。



参加者に自分でプログラムした作品の、工夫したところや見どころを説明しました

▼授業のねらい 表現した作品を友だちに話し、互いに学び合いながら改善方法を見つけ、主体的・対話的に学ぶ力を身に付けます。

○ポスター発表 教員

先生たちも子どもたちと一緒にプログラミングを学んでいます



今年度から各小中学校の若手教員を対象に始まった「プログラミング教員養成成熟」。21人の教員が、1年間、文部科学省教育ICTアドバイザーの平井聡一郎氏の指導のもと、授業にプログラミングを取り入れる方法を学びました。

教員らは、「子どもたちに目的をもたせること」「楽しんで取り組むこと」など、プログラミングを取り入れる上で大切だと思ったことを話しました。また、「子どもたちが自主的に教材作りに取り組み姿も見られた」「子どもたち自身が試行錯誤しながら、身に付けたスキルを使って問題解決しようとしていた」と取組みの成果、そして、「時間の確保が必要」「評価が難しい」など、見えた課題を発表しました。

▼問合せ 学校教育課

☎ 72 6922